を聞いてあと来れる物せる山川軍一と中ほどに字
治川よりも物すごし橋と思はるゝ人とも水の流しを
川中ゆて橋頭と流せんとして嶮と第一山形勢之を望
き安うみる川と嶮崖をなして如何もとゝいふ所ハ流れ
らべ烏帽子軍と黒葉縅の渡を渡る武者ハ二騎無勢よ
り一所ぞうゝ之の流をもつて文字に弱を飼と水のを流れ流
流れ馬いたく逆きたる逆きたる来たりしが信濃の長刀打振て
波を掛て流れ之来水紙巾を巻りて馬之尻を掛け
手綱をくれて流れ流れ形勢頗る味方も用を渡を水と寒

河江の方より星軍に白糸の鎧着白布帷を懸けたる武者
栗毛の馬に打乗りしが是も一騎逆巻く流る馬を飼と放
さ川中にて勝負をせんとて言葉をかけ一に打逆せんとも
思ひけんかしも臆せず寄合ひ渡打除半腹ぐらうして
馳並べ五六合ばかりして水陸ハ流れて之ゝるゝど
しうは陸く帰り帰り新手を陸を
助けんと山形勢の中から或者二十騎之村金陸二番の後
一番に来のりけきば味方討たる陸ケ崎として氏家中務を初
めとして之子陸崎出羽寒河江方ハ川端